

【第49期初級陸曹特技課程「准看護師」患者後送訓練】

令和7年10月31日（金）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、丘珠駐屯地において、初級陸曹特技課程「准看護師」第49期生24名に対し、北部方面航空隊の支援を受け、多用途ヘリコプター（UH-1）による患者後送訓練を実施した。

訓練は、航空隊から安全教育を受けた後、担架員4名、患者1名の5名1組の訓練班を編成し、駐機中の実機を使用して患者搭載・卸下要領を訓練した後、実際にエンジンを始動した機内に患者を搭載し、約25分のフライトの間は、患者観察やコミュニケーション等を実施するとともに、気圧、振動、温度、騒音等の影響を体験した。また、格納庫内では、航空隊の隊員による患者吊り下げ装置（ホイスト）を使用した患者搭載要領の展示、各種装備品の説明を受けた。

本訓練において、学生は、新たに航空機による患者後送に必要な識能を習得し、衛生救護陸曹になるべく、また一步、前進した。



機内において担架を固定する学生



患者を卸下し搬送する学生



UH-1へ患者を搭載



格納庫で装備品の説明を受ける学生



安全教育を受ける学生



搭載準備する学生



UH-1 へ向かう担架班



ホイスト訓練の展示



准看護学院第49期生・学院長・教官・助教と北部方面航空隊の方々